

国宝・重要文化財の防火設備等の緊急状況調査結果  
(アンケート調査結果) について

1. 緊急状況調査について

文化庁は、フランス・パリのノートルダム大聖堂において発生した火災を受けて、4月22日付け通知により、次に掲げるものについて、防火設備の整備状況等の緊急アンケート調査を実施（調査対象、回答数、調査項目は別紙参照）。

(1) 国宝・重要文化財（建造物）

世界遺産である国宝・重要文化財も調査。なお、世界遺産は、国宝として指定されているもの、または国宝ではないが重要文化財として指定されているものがある。

(2) 国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等

2. 調査結果の主な内容（各調査結果概要については3頁以降参照）

国宝・重要文化財（建造物）

世界遺産又は国宝の9割以上が全部又は一部木造で建てられ、これらの周囲の6割が木造密集地であるなど、火災の潜在的危険性が高いと見られる状況を改めて確認。その他の重要文化財についても、概ね同様と確認。

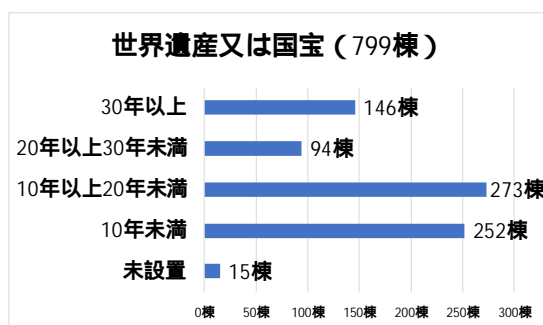
木造建造物の状況等

世界遺産又は国宝（ ）の798棟・99.9%、重要文化財全体の4218棟・92.8%が全部又は一部木造で建造。

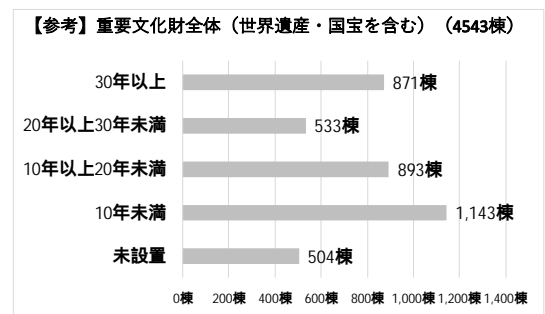
( 「世界遺産又は国宝」では、世界遺産かつ国宝であるものは1棟として計算。以下同じ。 )

防火対策の状況については、世界遺産又は国宝のうち、約2割で消火設備の整備・改修後30年以上経過し、老朽化による機能低下のおそれ。また、整備・改修後30年未満の消火設備を有する建造物（619棟）についても、少なくとも一部に毀損や不具合を申告するものが約半数。（要点検）

消火設備が整備・改修された年



( ) その他、設置時期不明や設置の必要がない建造物が19棟ある。



( ) その他、設置時期不明や設置の必要がない建造物が599棟ある。

火災等の緊急時に対応できる人数については、特に、夜間など時間帯によって管理体制に脆弱性が見られることが判明。

**管理体制の状況**

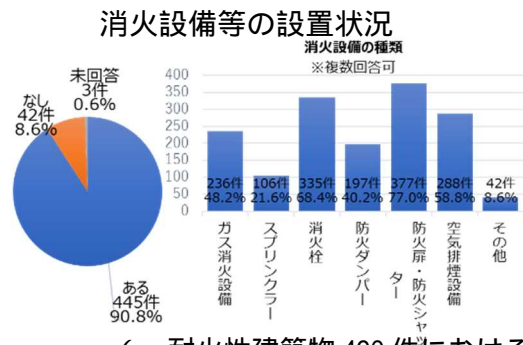
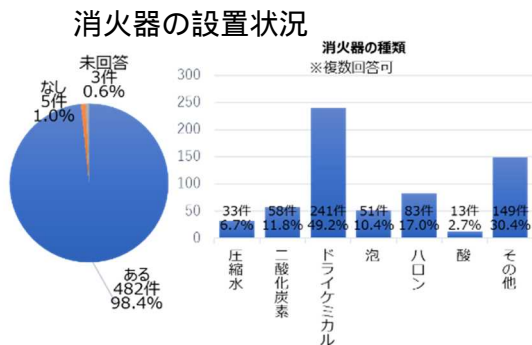
火災等の緊急時に対応できる人数について、夜間では、世界遺産又は国宝の 67 棟・8.3%、重要文化財全体の 1608 棟・35.4%で 2 人未満と回答。

**国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等**

美術工芸品の国宝を保管する博物館等では、多くの施設で消火設備等を設置しているが、約半数が 30 年以上経過し、老朽化による機能低下のおそれ。また、国宝・重要文化財を保管する博物館等では、少なくとも一部に設備の不具合など修理等を要する設備があるとの申告が約 4 割。（要点検）さらに、保管する文化財の特性等に応じた消火設備等の必要性を指摘する意見あり。このほか、文化財救出の訓練実施や計画策定については、各々 2 割前後に留まるなどの実態も判明。

**消火設備等の設置時期**

30 年以上経過：45.5%、20 年以上 30 年未満：16.4%、10 年以上 20 年未満：18.2%、10 年未満：20.0% （ 国宝を保管する博物館等施設 55 件における状況。重要文化財全体については、今回の調査対象では未実施。 ）



（ 耐火性建築物 490 件における状況 ）

**3 . 今後の対策について**

今回の調査により明らかとなった課題を踏まえ、国宝・重要文化財（建造物）や国宝・重要文化財(美術工芸品)を保管する博物館等について対応を採る必要。その中でも、価値の重要性という観点からは、特に世界遺産や国宝について早急に対策を講ずる必要。

文化庁では、専門家や消防庁、国土交通省等の関係省庁と連携し、文化財の火災リスク等の把握と、それに応じた防火設備の整備の検討に資するガイドラインを今後新たに作成し、文化財所有者等や地方公共団体、博物館等に提供。

今回の調査により明らかとなった課題を解消できるよう、実地調査等も通じて更に精査を加え、必要な整備等を把握し、国宝や世界遺産等を中心とした文化財防火対策について総合的かつ計画的に対応策をとりまとめ、防火体制を確立していく予定。

## < 調査結果の概要 >

### 国宝・重要文化財（建造物）

#### (1) 火災についての潜在的な危険性

国宝・重要文化財（建造物）については、今回の調査においても、世界遺産又は国宝の9割以上が全部又は一部木造で建てられ、これらの周囲の6割が木造密集地であるなど、火災の潜在的危険性が高いと見られる状況が改めて確認された。その他の重要文化財についても、概ね同様の状況にあると確認された。

世界遺産又は国宝（ ）の798棟・99.9%、重要文化財全体の4218棟・92.8%が全部又は一部木造で建造。また、世界遺産又は国宝の487棟・61.0%、重要文化財全体の2243棟・49.4%が木造密集地にある状況。（「世界遺産又は国宝」では、世界遺産かつ国宝であるものは1棟として計算。以下同じ。）その他、次のような状況を確認。

- ・ 国宝の137棟・48.9%、重要文化財全体の1372棟・30.2%が内部で火気を使用する状況。
- ・ 国宝の217棟・77.5%、重要文化財全体の3629棟・79.9%で不特定者が接近できる状況。
- ・ 国宝の131棟・46.8%、重要文化財全体の1746棟・38.4%が可燃性の高い屋根材を使用。

#### (2) 自動火災報知設備や消火設備等の老朽化・不具合

今回の調査では、自動火災報知設備や消火設備等が設置されていても、例えば、世界遺産又は国宝のうち、約2割で消火設備の整備・改修後30年以上経過し、老朽化による機能低下のおそれがあることが判明した。また、整備・改修後30年未満の消火設備を有する建造物（619棟）についても、少なくとも一部に毀損や不具合を申告するものが約半数であった。今後、各設備の状況や必要な整備等を確認するため、実地調査等も通じて更に精査を加えていく必要がある。

##### 【自動火災報知設備の設置状況】

- ・ 自動火災報知設備について、世界遺産又は国宝の717棟・89.7%で、重要文化財全体の3983棟・87.7%で設置。（国宝で未設置となっているものは、修理工事中の1棟のみ。重要文化財で未設置になっているものには、最近重要文化財に指定されたもので、現在整備の途上にあるものが多い。）

##### 【自動火災報知設備の老朽化・不具合】

- ・ 自動火災報知設備の設置時期については、世界遺産又は国宝の総数で見れば、整備後、30年以上経過が170棟・21.3%、20年以上30年未満が131棟・16.4%、10年以上20年未満が300棟・37.5%、10年未満が191棟・23.9%。その他、未設置設定や設置時期不明、設置の必要がない建造物が7棟ある。
- ・ 重要文化財全体では、整備後、30年以上経過が1421棟・31.3%、20年以上30年未満が625棟・13.8%、10年以上20年未満が924棟・20.3%、10年未満が1032棟・22.7%。その他、未設置や設置時期不明、設置の必要がない建造物が541棟ある。
- ・ 老朽化の具体的状況としては、国宝・重要文化財の別に関わらず、部品の劣化による機能不全や、感知器の誤報等の不具合があるとの申告があった。

#### 【消火設備の設置状況】

- ・ 消火器について、世界遺産又は国宝の 696 棟・87.1%、重要文化財全体の 4052 棟・89.2%で設置。
- ・ 消火器以外の消火設備（消火栓、放水銃等）について、屋外は世界遺産又は国宝の 730 棟・91.4%、重要文化財全体の 3529 棟・77.7%、屋内は世界遺産又は国宝の 107 棟・13.4%、重要文化財全体の 762 棟・16.8%で設置。

#### 【消火設備(消火器以外)の老朽化・不具合】

- ・ 消火設備の設置時期について、世界遺産又は国宝の総数で見れば、整備後、30年以上経過が 146 棟・18.3%、20年以上30年未満が 94 棟・11.8%、10年以上20年未満が 273 棟・34.2%、10年未満が 252 棟・31.5%、未設置が 15 棟・1.9%。その他、設置時期不明や設置の必要がない建造物が 19 棟ある。
- ・ 重要文化財全体では、整備後、30年以上経過が 871 棟・19.2%、20年以上30年未満が 533 棟・11.7%、10年以上20年未満が 893 棟・19.7%、10年未満が 1143 棟・25.2%、未設置が 504 棟・11.1%。その他、設置時期不明や設置の必要がない建造物が 599 棟ある。
- ・ 老朽化の具体的状況としては、放水銃基礎下からの漏水や、配管からの漏水等の不具合があるとの申告があった。
- ・ このうち、状態について精査が必要であるものの、整備後 30 年未満の消火設備を有する世界遺産又は国宝（619 棟）についても、少なくとも一部に毀損や不具合があるとの申告が約半数からあった。

### (3) 管理体制の脆弱性

高齢化や担い手不足等により、特に、夜間など時間帯によって管理体制に脆弱性が見られ、火災等の緊急時に対応できる人数で消火栓の利用も困難な状況（ ）であるところも多いことが今回の調査で判明した。

- ( ) 1人で操作可能な易操作性消火栓設備が設置されている場合を除き、消火能力が高く、消火範囲が広く設定されている消火栓は、水圧も高く、その操作は訓練をした人によって複数名で扱うことが必要。

- ・ 火災等の緊急時に対応できる人数について、夜間では、世界遺産又は国宝の 67 棟・8.3%、重要文化財全体の 1608 棟・35.4%で 2 人未満と回答。

#### 国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等

##### (1) 自動火災報知設備や消火設備等の整備状況

自動火災報知設備や消火設備等が設置されていても、施設の設置年と同時期に整備されているなど数十年前に整備されて老朽化の進んだ設備が多い状況にあることが今回の調査で判明した。例えば、国宝を保管する博物館等では、多くの施設で消火設備等を設置しているが、約半数が 30 年以上を経過していることが明らかになった。また、国宝・重要文化財を保管する博物館等では、少なくとも一部に設備の不具合など修理等を要する設備があるとの申告が約 4 割であった。今後、各種設備等の状況や必要な整備等を確認するため、実地調査等も通じて更に精査を加えていく必要がある。

さらに、保管する文化財の特性や管理体制等に応じてより適切な消火設備等を今後整備していく必要性に関する一部意見等が示された。

【耐火性建築物（490件）における自動火災報知設備の設置状況】

- ・ 自動火災報知設備について、474件・96.7%で設置。

【耐火性建築物における消火設備等の設置状況】

- ・ 消火器について、482件・98.4%で設置。
- ・ 消火設備等（ガス消火設備、消火栓等）について、445件・90.8%で何らかの設備を設置。その他の消火設備等（動力ポンプ、貯水槽等）について、231件・47.1%で何らかの設備を設置。
- ・ 防犯警報装置について、363件・74.1%で監視カメラを設置。

【消火設備等の老朽化・不具合等】

- ・ 消火設備等の設置時期について、国宝を保管する博物館等施設55件では、整備後、30年以上経過が45.5%、20年以上30年未満が16.4%、10年以上20年未満が18.2%、10年未満が20.0%など、設備の老朽化による機能低下のおそれがある。
- ・ 状況について精査を要するが、調査対象539件のうち約4割で少なくとも一部に設備の老朽化や不具合など設備整備を要するとの申告があった。
- ・ また、より文化財の保管に適した設備や管理体制等の状況に応じた設備の導入・更新の必要性に関する意見も一部示された。

(2) 管理体制等の状況

防火管理者等の選任や定期的な設備の点検、消火訓練、施設内の巡回・監視、警備などが行われているが、火気の使用や警備の外部委託を行っているものが各々5割前後であることや、文化財救出の訓練実施や計画策定については各々2割前後に留まるなどの実態も判明した。

- ・ 防火設備等の点検について、耐火性建築物においては485件・99.0%で行われており、うち168件で指摘事項があった。指摘内容には、消火設備等の老朽化や動作不良に関することが多い。
- ・ 施設内での火気の使用状況について、耐火性建築物においては254件・51.8%で火気の使用が行われている。
- ・ 常駐の警備専門人員の配置状況について、耐火性建築物においては207件・42.2%で配置されており、配置されていない場合には、240件・49.0%で警備会社による機械警備が採用されている。
- ・ 消火訓練について、耐火性建築物においては390件・79.6%で行われている。一方、文化財救出訓練の実施について、耐火性建築物においては97件・19.8%で実施、文化財救出計画について、119件・25.3%で策定となっている。

## 1. 緊急状況調査（アンケート調査）の対象・回答数

## (1) 国宝・重要文化財（建造物）の防火設備の整備状況等

	調査対象	回答状況・回収率
重要文化財	4649 棟 (637 棟)	4543 棟・97.7% (637 棟・100%)
うち国宝	284 棟	280 棟・98.6%
世界遺産又は国宝	803 棟	799 棟・99.5%

( 世界遺産である国宝・重要文化財も調査しており、括弧内は世界遺産の構成資産となっている国宝・重要文化財（建造物）の数。なお、世界遺産は、国宝として指定されているもの、または国宝ではないが重要文化財として指定されているものがある。)

## (2) 国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等の防火設備の整備状況等

- ・調査対象となる博物館、美術館及び埋蔵文化センター等 539 施設
  - ・回答状況・回収率 505 施設・93.7%
  - ・回答総数 510 件(うち耐火性建築物の回答：490 件、非耐火性建築物の回答：20 件)
- ( 博物館等施設によっては、複数の保管場所（耐火性建築物、非耐火性建築物）に重要文化財を保管している場合があるため、調査対象件数と保管場所ごとの回答件数が一致しない。)

## 2. 主な調査項目

## (1) 国宝・重要文化財（建造物）の防火設備の整備状況等

火災の危険性	・建造物内部での火気使用の有無 ・建造物の周囲の状況(木造密集等)	・建造物内部の開放状況、不特定者の接近の可否 ・屋根の材料	等
警備・訓練体制	・火災等の緊急時に対応できる人数	・消防訓練の実施状況	等
防火設備の現状	・自動火災報知設備の設置状況 ・防火水槽等の状況	・消火設備の設置状況、加圧ポンプ等の動作状況	等
自由記述	・防火、防犯対策への要望		等

## (2) 国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等の防火設備の整備状況等

防火管理体制	・自動火災報知設備の設置状況 ・施設の巡回・監視状況	・消火設備の設置状況 ・消火訓練、文化財救出訓練の状況	等
防犯管理体制	・防犯警報装置の設置状況	・警備体制、巡回監視の状況	等
自由記述	・防災設備の改修の必要性		等